

編集後記・・・

■今年、重朝庵主には6月に米寿を迎えられます。心からなる祝意を表したいと存じます。また、会誌も15号と節目の号数になります。会誌で「貞子さんに再会」と再出発した本誌も回を重ね、あつと言つ間の9年間でした。各号で貞子さんの足跡を振り返ることができました。■筆者は茅書門を訪問するようになり10年経ちました。丁度第7回入来新能開催年（平成20年）の3月に鹿児島謡曲連合会会報「風姿」に一文を頂きたく貞子さんを訪問しました。その時以来重朝庵主には先達としてご指導を受けてきました。特に貞子さん亡き後は密教寺院の座主のような風格で、広い家屋敷を一人で管理し、早朝に墓参りをし、晴耕雨読の生活をして居られるように見受けました。心から天皇を愛し、日本語を大切に、感性鋭くウタの道を極めて来られるようにでした。筆者が特に多くしているのは、戦後の東京裁判史観の徹底批判。日本の歴史は天皇を中心に見ると言つてことです。その関連で渡白晃爾氏の著書を8年前紹介され、今やその著書数は20冊に及びます。その中に、断片的に話されていたことがよく出てきます。■本誌の投稿者にお子様達も加わって頂きます。

した。感謝。沢山の「子息」「息女」お孫さん、曾孫さんを得て、誠に贅沢な人生だと感服しております。さらに、令和時代の天下の行末を共に見守りたいものです（中西）。

■私は相星雅子さんと10年に一回9月の炬ばたセイ談会の席上でのお付き合いです。ありがとうございます。澁谷会長の追悼文にありますように、ありし日のお姿が思い浮かべられてまいります。心よりご冥福をお祈り申し上げます。■第15号におきまして6月上旬から原稿を送って頂き、順次余裕をもって編集作業を行うことができました。ありがとうございました。（下土橋）

「炬ばたセイ談」 第15号

炬ばたセイ談会会長 澁谷繁樹

編集担当 中西喜彦・下土橋渡

事務局T895-11402

薩摩川内市入来町浦之名130

入来院重朝方

TEL・FAX 0996-44-3586

印刷 新大同印刷株 (0996-30-1811)